



第522号 令和4年1月1日
発行所 京都市学校医会
京都市中京区間之町通竹屋町下ル
楠町601-1 こどもみらい館2階
TEL (075) 256-0351
FAX (075) 241-3568
発行人 杉本英造

新年あけましておめでとうございます

会長 杉本英造

新年あけましておめでとうございます。旧年中のご支援、ご協力に心から感謝申し上げますと共に、本年もよろしくごお願い申し上げます。

令和3年も、新型コロナウイルス感染症に明け暮れた年でした。幸い5波は収束してきましたが、変異株オミクロンの出現で油断できない状態にあります。ワクチン、治療薬の効果に期待し、平穏な日々を送れることを願っています。この2年間 教育委員会、校園長会、養護教育研究会と定例の懇話会を開催できず、今年こそは開催し意思疎通を図って参りたいと思います。

京都市学校保健会の会長も兼務していますが、2年間の任期中、研究・表彰・教育シンポジウムなど様々な行事を開催できず、多くの方との出会いの機会なく残念でした。令和2年は開催できなかった学校医会研修会を昨年6月26日に開催できたことは喜びでした。長野県こころの医療センター駒ヶ根 原田謙先生に『「キレる」はこころのSOS』ご講演いただきました。今年度も計画しておりますので、校医ニュースで広報します。

全国学校保健・学校医大会(10月30日 岡山市)は、WEB開催のみとなり現地参加はできませんでした。校医ニュースにて内容を掲載して参ります。本年の

第73回指定都市学校保健協議会は6月5日(熊本市)、第53回全国学校保健・学校医大会は11月12日(盛岡市)開催予定です。WEB開催でなく現地参加できることを願っています。

令和4年度は3地区の小学校が統合し開校します。西京区の福西小学校と竹の里小学校が統合し竹の里小学校。左京区の静原小学校と市原野小学校が統合し市原野小学校。伏見区の小栗栖小学校と石田小学校が統合し石田小学校。少子化により今後も統廃合は続きます。

4月の総会までの行事

1. 第70回近畿医師会連合学校医研究協議会総会 1月23日(大阪 WEB開催)
2. 小学校大文字駅伝は中止。代替大会・1000m記録会 2月6日(西京極総合運動公園)
3. 京都府学校医部会総会 3月23日(京都府医師会館 WEB開催)
4. 京都市学校医会新任校医研修会 3月24日(こどもみらい館)
5. 京都市学校医会総会 4月16日(こどもみらい館)

本年も「コロナに負けるな」を合言葉に皆様のご健勝をお祈りし、学校医会活動へのご協力よろしくごお願い申し上げます。

謹 賀 新 年 令和4年 元旦

会 長 杉 本 英 造	常任理事 大久保 秀 夫	監 事 長 村 吉 朗
副 会 長 井 本 雅 美	川 勝 秀 一	東 道 伸 二 郎
山 内 英 子	中 嶋 毅	議 長 奥 村 正 治
専務理事 安 野 哲 也	西 村 康 孝	副 議 長 井 上 喜 美 子
	林 鐘 声	

京都府眼科学校医会幹事 嶋 元 孝 純

京都府耳鼻咽喉科専門医会理事 鈴 木 由 一

新年の御挨拶

京都市教育長 稲田新吾

新年あけましておめでとうございます。

学校医会の先生方におかれましては、日頃より、子どもたちの健康の保持増進並びに本市教育の発展に多大なる御支援と御協力を賜り、心から御礼申し上げます。

昨年は、本市でも感染力の強いデルタ株の影響で、新型コロナウイルス感染症の急速な感染拡大が見られ、本市立学校・幼稚園では、令和3年4月以降11月末時点で児童生徒、教職員の感染者が1,400名を超え、多数の学校園で、学級閉鎖や接触者へのPCR検査等を実施することになりました。

学校医会の先生方には、こうした厳しい感染状況の中であって、学校健診の円滑な実施や各校園における感染症対策への御指導をはじめ、教職員のワクチン早期接種への御協力や、学校園での抗原検査キット活用にあたっての手引きの作成に御助言を賜るなど、学校園における感染拡大防止の取組に多大の御尽力をいただきましたことに感謝申し上げます。

先生方のご助言等により、学校・幼稚園では、マスク着用や手洗い・消毒、「三密」の回避等、基本的な感染防止策の徹底、各家庭と連携した丁寧な健康観察や、感染リスクの高い教育活動の制限等により、一部集団感染となる事案はあったものの、概ね、教育活動を通じた感染拡大の抑制を図ることができ

たものと受け止めているところです。

現在、コロナ禍の影響が2年近くにも及び、子どもたちやその家族も、様々な不安を抱えています。更に子どもの貧困、いじめ、虐待、ヤングケアラー等の様々な社会問題が顕在しており、体力や視力の低下など、生活習慣の変化が子どもたちのこころとからだの健康に及ぼす影響も懸念されております。

こうした中、教育委員会といたしましても、今後とも、子どもたちの学びの場としてはもとより、社会のセーフティネットとして、安心安全な子どもたちの居場所を確保する公教育の役割を踏まえ、引き続き、感染拡大防止の徹底を図りながら、子ども一人に一台の配備が実現したタブレット端末の活用による一人一人の子どもに適した学びの保障も含め、子どもたちの健やかな学びと育ちの充実に取り組んで参ります。

杉本英造会長を中心とする京都市学校医会の先生方との連携をより深め、子どもたちのいのちと健康を守る取組の更なる充実に努めてまいりますので、今後とも変わらぬ御支援・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、京都市学校医会のますますの御発展と、皆様の御健勝を心から祈念申し上げます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

新年のご挨拶

京都府耳鼻咽喉科専門医会会長 大島 渉

新年 明けましておめでとうございます。

一昨年2月より始まりました新型コロナウイルス感染症第V波の最中に2020東京オリンピック・パラリンピックが昨年7月から8月にかけて開催されました。「安心・安全」な「復興五輪」ということで

開催されましたが、感染者数増加に歯止めがかからない状況となり、4回目の緊急事態宣言の発出となりました。学校生活にも大きな影響を及ぼしました。最近では感染者数も激減しておりますが、第VI波がどのようなのか気になります。今後はワクチン

接種の拡大と治療薬の開発により、収束に向かうことを期待するところです。これからも継続すると思われそうです。ウイズ・コロナ時代にあっても、私達学校医は子供達の「安心・安全」を守らなければなりません。先生方には、子供達の健康管理に関しまして、より一層のご高配をいただきます様をお願いする次第であります。

昨年度の学校健診についても、関係各位のご尽力により、滞りなく実施されています。先生方の感染

防御に対するご配慮により、大過無く実施できているようでありますので、今後も学校関係者と充分ご相談いただきまして、健診業務を実施していただきます様お願いいたします。

結びに、学校医先生方ならびに関係各位の方々のご健勝と益々のご活躍を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年も何卒よろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

京都府眼科医会会長 高橋 義 公

新年あけましておめでとうございます。コロナ感染者は劇的に減少しましたが、新たな変異株の出現に戦々恐々としてお正月をお迎えになったのではないのでしょうか。学校医会の先生方には、いつもご理解ご協力いただきありがとうございます。

昨年の学校健診でブルーライトカット眼鏡をかけている児童がいました。たずねると、「目にいいから」と答えていました。ブルーライトカット眼鏡は、夜間にデジタルデバイスを使用する時、睡眠障害の発生を防ぎ、体内リズムを保持するのに効果がありますが、普段の装用は目の疲れをとるとか網膜障害を起さないとかという効用は今のところ認められていません。昼間の装用は、かえって近視抑制を妨げるとも言われています。しかし、コロナ禍のため学校保健委員会は開催できないので、保護者に伝える機会がないのは残念なことです。

さて、以前の学校医会ニュースにも書きましたが、今一番の問題は、コロナ禍の中でのステイホームなどの影響もあり、更に近視の児童が増えているということです。2050年には、世界人口の50%が近視になりそのうち10%が黄斑変性や緑内障などの合併症をきたすと言われていています。近視進行抑制のためには、いくつかの治療法がありますが、日本では承認されたものはまだありません。学校医としては、長

時間の近業を避けること、1日2時間の屋外活動することを粘り強くアナウンスしていきたいと思っています。

ところで、文科省のGIGAスクール構想により、学校現場でのデジタル教科書の導入が始まろうとしています。ICTを活用した教育にデジタルデバイスは欠かせないものですが、上述したように、適切に使用しないと更に近視が進行するのではないかと危惧されています。児童生徒には、自らが目の健康に注意するようにポスターをはじめ様々な方法で啓発しています。

また、男子の約20人に一人、女子の500人に一人は色覚異常と言われていています。このような児童には色誤認が起こる可能性があり、黒板にしろ、デジタルデバイスにしろ、色のバリアフリーを考慮した授業が求められています。

いずれにしても、現場の先生方のご尽力が欠かせません。業務が多い中大変とは存じますが、このような注意点に留意し対処していただきますようお願い致します。

眼科学校医は児童生徒の目の健康を守るべく努めてまいりますので本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

第52回全国学校保健・学校医大会を視聴して（シンポジウム災害）

東山泉小中学校医 長 村 吉 朗

岡山県岡山市で開催された第52回全国学校保健・学校医大会でのシンポジウム災害の概要を報告いたします。

シンポジストは岡山県小児科医会会長・岡山愛育クリニック副院長 横山裕司、岡山大学病院救命救急災害医学科助教 塚原紘平の2名で、平成30年に岡山県真備町において多くの犠牲者を出した西日本豪雨に際しての経験を元に医療的ケア児に対する対応の問題点と課題を報告されました。

その内容を要約いたしますと、まず避難時に医療的ケア児の存在が考慮されておらず当人・家族のみならず受け入れ側にも多くの戸惑いと課題が山積みであったこと。さらに一人一人の必要とするケアや機材、資材が必要であり対応が困難であること等があげられる。これらに対し現場で苦勞しながら対応

をしてこられた経験が報告された。結論としては避難には車が必要であり、更に必要な機材、資材を普段から十分に準備しワンボックスカーの利用が適当であり、電源の必要性からもHV等の電源を持つものが望ましい。避難に当たっては、まず避難所に避難の登録を行い救助物資等の配給を受けながら車内での避難が周囲の方とのトラブル等を回避する方法であること。更に望ましいのは災害拠点病院として医療的ケア児の受け入れが後回しとなることの多い基幹病院より、小回りのきく中小の病院に普段から受診するなどの関係を作りいち早く避難することが望ましいと示されました。

以上簡単に内容を記載いたしました。抄録が必要な方は事務局まで御連絡下さい。

令和3年度 第52回全国学校保健学校医大会 in岡山 報告

第4分科会 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科専門医会理事 鈴木 由一

令和3年10月30日、当初は現地開催で行われる予定であったが、このコロナ禍でやはりWEB開催になってしまいました。

第4分科会の耳鼻咽喉科では、岡山県耳鼻咽喉科医会大道卓也先生、岡山県医師会常任理事藤本政明先生の2名が座長をされました。

別表の如く8演題の発表がありました。抄録集は府医の耳鼻咽喉科専門医会事務局に置いておきます。

第4分科会 耳鼻咽喉科

〔座長〕岡山県耳鼻咽喉科医会 会長 大道 卓也
岡山県医師会 常任理事 藤本 政明

発表順	演題名	研究発表者名
1	新潟市における新型コロナ感染症下の学校健診について	新潟県医師会 大 滝 一
2	2020年度耳鼻咽喉科健康診断全国定点調査結果について	神奈川県医師会 朝比奈 紀彦
3	全国の高等学校耳鼻咽喉科学校健診に関わる実態調査結果	大阪府医師会 坂 哲 郎
4	就学期聴覚障害児の支援体制に関する全国調査結果	岡山県医師会 福 島 邦 博
5	先天性一側性外耳道閉鎖症児への軟骨伝導補聴器の長期装用効果について	徳島県医師会 島 田 重 紀
6	不注意の問題を伴う中等度難聴児の一症例について	神奈川県医師会 寺 崎 雅 子
7	山口県東部における耳鼻咽喉科と県聴覚障害教育センターとの連携について	山口県医師会 池 田 卓 生
8	聴覚障害をもつ小・中・高校生への医療・教育連携に向けた取り組み -指導教員用パンフレットの作成-	岡山県医師会 片 岡 祐 子